

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『青く塗りつぶせ』

阿部 夏丸／作（ポプラ社）



令和4年7月3日

読めば愉快だ
宇都宮市立図書館
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- ゴミみたいなものをお金に変えるというアイデアにわくわくした。
- 友達のために、島で魚などを集めて100万円を目指すなんて、よっぽど友達思いじゃなかったらできないと思った。
- 小さな島、小さな力でも、大きなことができるのがすごいと思った。6人の実行力と友情が印象にとっても残っていて、ページをめくる手が止まらなくなった。
- 大人だからできる、子供だからできない。そんなことなんてないことを教えてくれた気がする。
- 少年・少女たちの発想にとってもワクワクさせられた。自分たちで会社を作ってしまうだなんて、とてもびっくりした。
- セイたち全員が仲間や同級生、友達をお互いに思いやっており、皆、優しい子たちなのだなあと思った。

『びわ色のドッジボール』 もり なつこ／作（文研出版）

- 友達はやっぱり大切だなと改めて思いました。私は授業などでしか、いじめの話は聞いたことがなく、どんな感じなのか知りませんでした。今回、このお話を読んで、まわりの人の気持ちをもっと感じようと意識できるようになりました。
- ドッジボールが大好きなので、つばさの気持ちがよく分かった。
- とても読みやすかった。自分と重なるところがあったから、直していかなきゃと思った。
- 主人公の気持ちを誰も分かっていないので、ひどいと思った。
- 私の学校にも不登校の子がいるので、その子はこんな気持ちなのかなと思った。

『スウィートホーム』 花里 真希／著（講談社）

- 片付けの大切さに気付きました。きれいな場所には、きれいな心が宿り、きたない場所には、きたない心が宿るということを実感しました。
- 家族が助け合っていてとても良かったです。これからも良い家族になってほしいです。
- 千紗が少し短気で、イライラしっぱなしの所を自分と重ねてしまったけど、最後に掃除をしたり、色々な人に出会ってイライラも少なくなり、みんな幸せになったのが良かった。
- 「美しい場所には美しい心が宿る」は本当にあるのだなと実感しました。

『崖の下の魔法使い』 吉野 万理子／作（学研プラス）

- 思い出が星になっている場面が心に残った。本当にあったら行ってみたいと思った。
- 今、自分はずらいことはないが、ミケみたいにつらいことがあっても、この先、乗りこえていけると良いなと思った。
- 思い出を預けることができるお店があったとしても、私は預けないと思う。いやな思いは生きるために必要だと思うから。
- 嫌な思い出を忘れたいと思う時はあるけど、忘れたい思い出も時には大切だということが分かる本でした。
- 思い出は大切なものということ、今まで以上に感じる事ができた。